

1                   メタボリードHDL-C測定値の安定性につ  
2 いて～糖尿病検体についての検討～

3  
4 ○唐川遥輔 平野繁治（玄々堂君津病院） 淵上孝一  
5 （君津中央病院） 三橋百合子（帝京短期大学ライフ  
6 ケア学科） 上野芳人（玄々堂君津病院）

7  
8 【はじめに】HDL コレステロール（HDL-C）は冠動脈  
9 疾患のリスクファクターの一つとして有用であり、  
10 また糖尿病患者においても診断や治療の経過観察に  
11 重要である。HDL-C 測定は汎用機による直接測定法  
12 が普及しているが、採血後の保存状態や測定試薬に  
13 よる変動が報告されている。今回、糖尿病患者検体  
14 を用いて採血直後からの変動を追跡し、直接法と  
15 CDC 基準法の DCM 法との比較をしたので報告する。

16 【方法】 1. 対象：当院外来通院中の 2 型糖尿病患者  
17 60 例 2. 測定試薬：①直接法：協和メデックス  
18 製メタボリード HDL-C ②HDL 基準法：簡易型 DCM  
19 法。すなわち、検体に DCM 分画剤を加えて遠心沈殿  
20 させ、上清のコレステロールを測定した。なお、中  
21 性脂肪 200mg/dL 以下の検体を対象として測定した。  
22 その他の脂質は総コレステロール、中性脂肪（い  
23 ずれも協和メデックス）を日立 7180 形分析装置で測定  
24 した。3. 測定と検体保存は 4℃で行い、採血直後  
25 および 24 時間後にそれぞれ脂質を測定した。

26 【結果】①採血直後と 24 時間後の変動。DCM 法と直  
27 接法における採血直後と 24 時間後それぞれの相関  
28 を検討した。採血直後では約 3.3%、採血 24 時間後  
29 は 2.6%とわずかな低値を示した。②フリードワルド  
30 (F) 式への影響。直接法から求めた F 式と DCM 法か  
31 らの F 式との相関をみたところ、採血直後、24 時間  
32 後とも若干の乖離を認めた。しかし、直接法と DCM  
33 法との差のプロットにおいて変動は少なかった。

34 【まとめ】直接法による HDL-C の採血直後および 24  
35 時間後の変動はわずかであり安定性が認められた。  
36 糖尿病患者では、HDL-C 値の臨床的意義は高いこと  
37 から、変動の無い HDL 直接測定法が求められる必  
38 要があり、本測定法は有用性が高いと考えられる。